

令和6年度佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員会
議事概要

○日時

令和6年9月30日（月）10:00～12:00

○場所

佐賀市役所4階大会議室

○出席者

【委員】（順不同、◎は会長）

◎田代勝良氏、石井孝嗣氏、副島洋一氏、池田進氏、永石智彦氏、宮崎一哉氏、
小副川博子氏、石丸忠夫氏、小林紀氏、荒木健氏、吉田まりか氏、諸田謙次郎氏、
松永志穂氏、吉岡剛彦氏、坂井克宏氏、立石康晃氏

【事務局】

<佐賀市>

森保健福祉部長、坂井福祉総務課長、野田福祉総務課係長、谷口福祉総務課主事

<佐賀市社会福祉協議会>

今井事務局長、渡邊地域福祉課長 江原地域福祉課係長、藤満地域福祉課主査、
鈴木地域福祉課主事、牟田口地域福祉課主事

【傍聴者】 1名

○次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 挨拶

4 会長・副会長の選任

4 議事

(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要説明

(2) 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について

① 関連事業の進捗状況について

② 重点事業の取組について

(3) 第5期地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に向けた市民アンケートについて

5 閉会

■会議概要

1 開会

○事務局

- ・委員の過半数以上の出席により会の成立を報告

2 委嘱状交付

委員へ委嘱状を交付

3 開会挨拶

森保健福祉部長、今井事務局長から挨拶

4 議事

○事務局

- ・会議については、佐賀市審議会等の会議に関する規程に基づき会議を公開する。

(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要説明

○事務局

- ・【資料3】を基に地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要について説明

質疑・意見

- ・特になし

(2) 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について

①関連事業の進捗について

○事務局

- ・【資料4】を基に、「第4期佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の関連事業の進捗状況を報告

質疑・意見

○委員

- ・避難行動要支援者の名簿作成に関し、自治会長、民生委員と協力しながら進めているがなかなか進まない。はがき等により依頼をしているが返信率は2割程度しかない。他に新た

な方法はないものか。

○事務局

- ・避難行動要支援者の事業に関しては、市としても、なかなか進まないと感じている。今年度新たに要支援者の対象となった約 900 名の方に登録に関する文書を送付する準備を進めている。新規で対象者となった方には事業説明の文書と登録の案内を送付しているが、同意率が伸びないのが現状である。昨年度、自治会長に地域で声掛けをしていただいた結果、約 120 名の新規の登録があった。自治会長にはご足労かけたが、協力いただき大変良かったと思う。この事業は市としても登録者を広げる必要性を感じており、担当者は長野へ先進地視察に行く予定である。特効薬のようなものはないが、全国の先進事例を参考に、佐賀市でも取り組めることがないか検討していきたい。

○委員

- ・自治会長をしているが私の校区では福祉協力員会議というものを 3 か月に 1 回程度、単位自治会で開催している。自治会長、老人クラブ、福祉協力員、民生委員等で構成されており、これだけ地域の方が集まれば、単位自治会の情報はだいたい集まる。その中で要支援者について議論を行うが、障がい者の方を一般的な避難所に連れて行って有効的な避難ができるのか、という意見があった。避難の必要性が事前に把握できていれば、普段お世話になっている施設等をお願いしたほうがいいのかという結論になった。福祉協力員会議のなかで確かな情報交換が必要である。

○委員

- ・第 5 期地域福祉計画からは再犯防止計画を一体的に策定するという事に期待している。再犯防止をするうえで、各種組織が更正を支援している。その中でタトゥーが更正する上での障害となっている。次期計画の中でタトゥーの除去に対する支援について盛り込んでほしい。

○委員

- ・社会福祉協議会の説明のなかで成年後見制度の利用促進の話があった。高齢者、障がい者等の利用可能な人は相当数いるが、制度を利用されている方は 25 万人に満たない。現状の成年後見制度は岐路に立っている。利用者の意思を尊重する意思決定支援に重点を置かなければならない。そういったことを念頭において、社会福祉協議会には頑張ってもらいたい。

②重点事業についての取組について

○事務局

【資料5】・【資料6】・【資料7】及び【資料8】を基に、重点事業の取組について説明
質疑・意見

○委員

・社会福祉協議会から地域の方とのつながりについて話があった。昔は社会福祉協議会の支所があったが、今は各地域担当が地域に出向かれており、頭が下がる思いである。支所廃止等の組織体制の変更があり、実際に支援を受ける方と支援を行う方が遠くなったのではないかという懸念があった。居場所づくりをお世話されている方に不便がでるようであれば、もう少し近づくような組織づくりを行っていただきたい。

○事務局

・社会福祉協議会の重点取組を説明したなかで、ご覧になっていただいたチラシに各地域担当者が掲載されており、コミュニティソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターを兼務している。生活支援コーディネーターは地域づくりを主な役割としており、生活支援体制整備事業を担う役割である。地域と距離ができていないかのご指摘であるが、15名の体制で両方の顔をもって地域に出向いて対応している。

○委員

・コミュニティカフェの説明があったが、どのような人々が中心となって運営されているのか。また、休止中のカフェがあるが、なにか理由があるのか。

○事務局

・現在40箇所設立されており、そのうち6箇所は休止中である。休止中の箇所については、コロナ禍で一時的に休止した状態が続いている状態であり、コミュニティソーシャルワーカーからも再開に向けた働きかけをしているところである。運営に関しては有志の方々で行っていただいている。設立当初には2年間で6万円までの助成を行っているが、それ以降は自前で運営を行っていただいている。参加者は全世代を対象としているが、高齢者が多い状況である。土日に開催し、子どもたちの参加を促しているカフェもある。

(3) 第5期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定にむけた市民アンケートについて

【資料9】を基にアンケート(案)について説明

質疑・意見

○委員

- ・アンケートの対象者が18歳以上となっているが、18歳未満の子どもたちもそれぞれ考えがある。アンケートの対象にすべきではないか

○事務局

- ・前回調査時からの引き続きである。アンケートはボリュームもあるため、18歳以上としていたのではないか。今回いただいたご意見については事務局で検討させていただく。

○委員

- ・再犯防止について、どういった連携をとるのか、警察や保護司等との仕組みづくりができていないのか。犯歴の強弱によって扱いが違ってくるのか、最終的に自治会等の地域におろすのかについて尋ねたい。

○事務局

- ・連携等に関して、これまで、犯罪を行った方々については佐賀保護観察所や佐賀地区保護司会等に対応をしていただいていたが、本市が連携する機会は少なかった。しかしながら、再犯防止にあたっては、関係者が連携して取り組むことが重要であり、今回の計画策定を機に行政と更生保護に支援していただいている方との接点づくりを行い、様々な事業に取り組んでいきたい。また犯歴の強弱や個人情報の問題等についてはまだ具体的に定めておらず、更生保護活動をされている方々のご意見を伺いながら、どのような支援が必要か検討していきたい。

○委員

- ・18歳以下の子どもにもアンケート等の形で意見聴取したほうがいいと思う。いまの学校は地域とともにある学校づくりが推進されており、地域の方とともに学んだり、交流したりする機会が多い。各家庭に無作為にお願いしても困るかもしれないが、ある学校の、あるクラスを選んで、子どもたちにアンケートを行うことも有意義なのではないか。
- ・居場所づくりについて、子どもの居場所づくり、高齢者の居場所づくり等をセットで行うことで総合的なプラス作用があるように思う。日本の制度は父が働き、母は専業主婦、子どもは二人いるという家庭をモデルとして作られているとテレビで報道されていた。しかしそのモデルに当てはまる家庭は6%しかない。子どもたちが、親がいない時間をどのように過ごすか、学校で預かるのもパンク寸前であり、地域での大人も子どもも参加できる居場所づくりは意義のある活動だと思う。
- ・両親とも高齢で、父が母の介護を行っている。地域との関わりはほとんどなかった。行政や地域で色々な活動をしていただいているのに必要なところに情報が届いていないのは非常

にもったいないと感じる。また免許返納後のサポートも必要。その世代にあった周知の仕方にもう一工夫あったらいいのではないかと感じた。高齢者でも歩いていけるような距離にコミュニティカフェがあればいいなと思った。

○事務局

- ・18歳以下の子どものアンケートについては検討を行う。

○委員

- ・アンケートについて文字が多いなと感じた。専門的な用語等があるので、言葉をやわらかくするとか、その解説があればよいと感じた。また再犯防止についての項目があるが、難しい言葉や馴染みのない言葉が多いので、わかりやすくなるような工夫をしていただければと思う。

○事務局

- ・アンケートについては専門用語が多かったり、文字数が多かったり、質問の内容も70問とボリュームがある。もう少しわかりやすい言葉や、解説を入れたほうがいいのではないかという意見について参考にさせていただく。

○委員

- ・アンケートの性別の選択肢に、男女に加えて「その他」というような選択肢を設けていただきたい。多様な性に配慮すべきだと思う。「～な方」という表現と「～な人」という表現が散見されるが、「～な人」で統一したほうが良いと思う。

○委員

- ・教育委員会が策定している、佐賀市教育振興計画と非常に似た項目があるため、そことすり合わせたらより、実効性のあるものができるのではないか。

○委員

- ・70歳以上を対象に高齢者実態調査が現在行われているが、同じような設問がある。

○事務局

- ・設問に関しては、比較検討するために、前回のものをベースとしている。このアンケートは全年代を対象として、無作為抽出を行い、調査を実施するため、高齢者実態調査と似たような設問がある部分をご容赦いただきたい。

5 閉会

以上